

第38回 全国学童保育指導員学校 東北会場を開催

真田 祐

全国学童保育連絡協議会 事務局次長

二〇一三年一月二三日、全国学童保育連絡協議会（以下、全国連協）主催の全国学童保育指導員学校の東北会場が、仙台市内の宮城学院女子大学で開催され、岩手・宮城・福島被災した地域からも多くの指導員が参加しました。参加者は全体で六一三名となり、昨年より一〇〇名ほど増えました。

* * *

東日本大震災以降、東北で開催する全国指導員学校は今回で三回目を迎えました。被災した地域の多くでは、学童保育の入所児童が震災前と比べて増えていきます。子どもたちが安全に安心して過ごせる放課後の生活を守り、働きながら子育てをする保護者や家族を支える役割を担う学童保育、そして指導員の仕事への期待はますます高まっています。学童保育の役割や指導員の仕事を確かめ、よりよい学童保育をつくるための課題を学びあううえで、指導員学校の開催には大きな

意義があります。

学童保育の運営方法、実施方法、実施条件、保育内容などは、市町村の施策に大きく左右されています。そのため、市町村や各施設によっても、条件や環境、運営のあり方などに、大きな違いがあるのが現状です。その背景には、これまで、国の学童保育の制度が不十分（公的責任があいまい、施設や指導員の条件整備を図るうえで必要な最低基準が定められていなかった、財政措置が不十分など）なものであったことがあげられます。東日本大震災からの復旧・復興に際しても、十分な方策がとられないなど、これまで抱えていた問題が浮き彫りになりました。

全国連協が継続して行ってきた支援の一つは、子どもたちが安心して生活できる学童保育を一日も早くつくること、そして、子どもとその家庭を守り、支えるために、日々懸命に働いている

指導員を支えていくことでした。全国学童保育指導員学校東北会場を準備する過程で、私たちが大切にしたいのは次のことです。

①子どもと保護者を支える学童保育・指導員の仕事の役割を確かめ、大切にした生活内容や指導員の関わりを学びあうこと。

②子どもと指導員自身の心のケアの補助となる内容にして「くんと」「悩みあい、語りあい、祈る思いで未来をつむぐ——学童保育というたからもの」と題した、庄井良信先生の全体講義／特別講座「震災後のこと」も「ストレスマネジメントと指導員のメンタルケア」／特設交流「子どもの安全を考える」を設けたこと。そのほかの分科会でも心のケアに関わる講義、交流が行われました。

③全国連協が協力を呼びかけている「東日本大震災学童保育募金」を県

連協や学童保育緊急支援プロジェクトが活用し、被災した地域の指導員の参加費とともに、交通費用や交通手段もできるだけ援助すること（三県・一六九人の指導員の方々に参加費支援、交通支援を行うことができました）。

④各地から参加した多くの指導員が学びあい、語りあうことで、相互のつながりを築き、「元気の素」を持ち帰ってもらえるようにしていくこと。

なお、NGOセーブ・ザ・チルドレンジャパンが、参加への支援として、岩手県や宮城県からの参加者用にバスを用意してくれました。

準備段階から当日まで、東北各地の県連協および、宮城県学童保育緊急支援プロジェクトがつながりを築いてきた多くの指導員の方々が運営にも携わり、参加者が気持ちよく学び、交流す

ることができたという感想につながりました。また、会場となった宮城学院女子大学には、準備・運営・会場整備など、多大なご協力をいただきました。

参加された指導員からは、次のような感想が寄せられています。「震災後、子どもたちがいろいろな面でおちつかない生活をしています。そのなかで、どのように子どもと関わればいいのか。ヒントがたくさんあり、とても勉強になりました」「震災後から、二年八か月。あまりにも大きな大きな震災でした。どう子どもと接したらいいのか。わからない状態から、人（仲間）と話すことの大切さを再確認しました。指導員として子どもたちに向きあい、共に乗り越え、寄り添い、笑顔をとり返していきたいと思えます」。

これからも、息の長い支援を継続していきますように。